

Contents ▶

- 1**
- 第14回大学教育開発センター公開シンポジウム講演を聴いて
- 2**
- JMOOCでのコース提供の取り組みについて

1 第14回大学教育開発センター公開シンポジウム講演を聴いて

大学教育開発センター長
心理・教育学系教授(大学アドミニストレーション研究科) 山本 眞一

2015年9月17日の午後、町田キャンパスにおいて、追手門大学の秦敬治副学長を招き、教育理念を達成するための大学改革と教学マネジメントの在り方について語っていただいた。同氏は、西南学院の事務職員を勤める傍ら、九州大学大学院で博士号を取得し、愛媛大学教員に転じて同大学の教育改革、学生支援、経営分析に関わった後、2014年9月から追手門大学副学長に就任という、ユニークな経歴の持ち主である。

秦副学長は「学生や卒業生が身につけた知識・技術・態度等の能力は、大学の教育理念、各授業やプログラムの到達理念との一貫性を担保しているのであろうか」という問題意識を、事前に我々に伝えていた。当日はこれを踏まえ、人を動かすには理念や目的そしてその達成に近づくために目標を示す必要がある、というところから話を切り出した。理念のないところに改革はあり得ず、仮にあったとしてもそれは「やらされた改革に過ぎない」というわけである。

それゆえ、大学教育改革を進めるには、IRなどの改革手法のみを重視するのではなく、教育成果を一番把握しているはずの現場の教職員の声を大切に、教職協働でFDを行い、理念達成のために学生の生の情報を共有すべきだと語った。事例としては、追手門大学において職員が受験生との面接を通じて入試の過程に深くかかわる「アサーティブ入試」や、改革のリーダーと学部・事務組織の一体感に配慮した愛媛大学の教育改革体制が取り上げられ、また追手門大学における教職協働を実現する仕掛けとして、教員・職員に関わらず必要な専門性を有する者を「教育開発機構研究員」として委嘱する制度や、選抜された学生に同大学の教育理念を実践できるリーダーを養成するコースの開設とこれに関わる教職員(チームによるToteisei)の存在なども紹介された。

以上、教学経営の多様な実例を含めて語っていただいたので、50人近く集まった学内外の聴衆も大いに満足気であった。

2 JMOOCでのコース提供の取り組みについて

総合科学系ビジネスマネジメント学群 専任講師 有賀 清一

はじめに

2015年10月8日から11月18日まで、日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)が提供する講義配信サービス上でビジネスマネジメント学群山口有次教授監修によるe-Learning講義「観光・レジャー産業のマネジメント - 業界イノベーションの種をさぐる -」が開講された。担当講師は、出演順に山口有次教授、下島康史准教授、渡邊康洋教授、五十嵐元一教授、丹治隆教授、日坂幸司教授。4週間にわたる、それぞれ約10分間の動画30本による講義であった。受講登録者数は2096名、修了者数は184名であった。このコースでは四谷キャンパスにおいて反転授業も実施した。



JMOOCによる講義配信

JMOOCとは、2012年にアメリカで立ち上がった「オンラインで公開された無料の講座を受講し、終了条件を満たすと修了証が取得できる」MOOCという教育サービスの日本版であり、2014年に開始された[1]。無料でe-Learningによって学習する形式で、数週間で学べるコース（講義）で構成されており、大学の講義を短縮した内容となっていることに特徴がある。各週は約10分間程度の動画5～10本程度と、確認の小テストあるいはレポートで構成される。受講者が一人になることがないように、オンライン上の掲示板で他の学習者とのディスカッションを行うこともできる。また、アメリカのMOOCとちがいで、JMOOCの受講者は大学生を中心とした若者ではなく、20代から80代までの年齢に幅広く分布しているという特徴がある。筆者のように教員としては、特別に撮影した動画ではあるものの、他大学の教員がどのような講義を行っているかを知ることができる、貴重な情報源である。

今回のコースは、ビジネスマネジメント学群の強みであるツーリズム、ホスピタリティ、エンターテインメントに関連する業界について、それぞれの業界に対してイノベーションのヒントを提案するという内容であった。旅行業、宿泊業、プライダル業、航空業界、航空客室サービス、外食、スポーツ、テーマパーク・遊園地、音楽、映画、テレビ、カラオケボックス、テレビゲーム、スマホゲームなど幅広く提案し、それぞれの業界について受講者が考えていくことを促した。当初より、関連する業界で働く社会人をターゲットにしており、コース開始前のアンケート（N=712）では、約20%の受講者が「仕事に役立てたい」「テーマについて考えるきっかけをつかみたい」と回答しており、フルタイムで働いている社会人の割合が約67%であった。また、約20%の受講者がe-Learningを受講したことがないということも興味深い。また、受講後のアンケート（N=120）では、本講座に83%の人が満足したと回答した。

おわりに

本コースに取り組むことによって、桜美林大学は約2000名の人にビジネスマネジメント学群の特徴を強く出した講義を提供することができた。同時に、動画を中心としたe-Learning講座作成と運用のノウハウを手に入れることができた。たとえば、JMOOCの運営では、一人きりになりがちなe-Learningにおいて、受講生の集中力が続く限界とされる10分間程度で切りながら動画を配信することや、掲示板でのディスカッションの誘発に力を入れていることなどである。最近のe-Learningは、これらに限らず一昔前の単純な動画視聴とは異なり、ノウハウの蓄積により受講生にとって受講しやすい環境を提供することに力を入れている。また、手軽な動画撮影手法やクラウドによる配信方法の研究開発も進んでいる。大学教育において今後役割が増加すると考えられるe-Learningについて、大学として知見と実績を得ることができたものと考えている。

参考文献

[1] “日本初MOOCの可能性と課題”，福原美三，研究報告教育学習支援情報システム（CLE）2014-CLE-12(1), 1-1, 2014-01-24

編集発行：桜美林大学 大学教育開発センター

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学 其中館1階 101 TEL.042-797-2918 FAX.042-797-6398

E-mail : fdcenter@obirin.ac.jp Web : <http://www2.obirin.ac.jp/fdcenter/>